

# 採択地域による取組発表

地域における取組みの内容や工夫した点について

宮城県栗原市 堀江 仁 氏

# 宮城県栗原市はラムサール条約登録湿地などの観光資源を有し、年間約177万人の観光客が訪れる地域である

## ●申請地域概要

### エリア名

- 宮城県栗原市

### 申請団体名

- 宮城県栗原市

### 年間観光客数 (令和6年)

- 約176.8万人

### 年間延べ宿泊客数 (令和5年)

- 約8.6万人 (うち外国人983人)

### 主な観光資源

- ラムサール条約登録湿地「伊豆沼・内沼」のハスの花と渡り鳥
- 日本ジオパーク認定「栗駒山麓ジオパーク」
- 歴史的建造物「長屋門」が日本一多く現存(543件)
- 100種類以上の体験プログラム



栗駒国定公園(栗駒山)の紅葉



外国人観光客による長屋門での餅つき体験

# 本市ではムスリム／ヴィーガン対応を行う施設が限られており、地域一体となった対応を促進するための体制整備が必要

## ●取組の背景・目的

### 【今後地域として目指す姿】

- 多文化共生そのものを地域の魅力とし、誰もが自分らしく安心して訪れ、暮らし、楽しめる幸せ溢れる観光地

### 【これまでの受入実績】

- 受入ツアー実績から、ベジタリアン等の割合は12%程度であり、年間外国人延べ宿泊者983人のうち120人程度がベジタリアン等と推測できる。受入研修会等には、多くの飲食店関係者が出席し、食や文化の多様性への関心が高い。

### 【地域の課題】

- ムスリムやヴィーガン対応を行う施設は限られ、受入環境が整っていない。栗駒山など観光地への訪問は多いが、宿泊や体験につながっておらず、地域内での滞在が課題となっている。

### 【本事業終了時の目指す姿】

- ハラルやヴィーガンなど多様な食習慣に対応したメニューを提供する店舗が10店に増え、礼拝スペースを備えた施設が30施設に拡大する。協議会の設立により継続的な推進体制が整い、リーフレットやWebサイトなどのPRツールを活用した誘客・営業活動が可能となることで、地域全体が多文化対応を実践する観光地としての基盤を築く。

## 受入環境整備として、11店舗でのメニュー開発の実施、 30か所への簡易礼拝スペース設置

### ●ベジタリアン等対応メニューの開発

- 受入環境整備の必要性や具体的な対応手法に関する勉強会を実施。参加者のうち関心を持った事業者を中心に、11事業者（飲食店8店舗、宿泊施設等3施設）にてメニュー開発を実施。
- 市や委託先が有する事業者ネットワークを活かして広く声掛けをすることにより、多くの事業者の賛同を得ることができた。



地域の高原大根を使った  
ベジタリアン対応のおでん



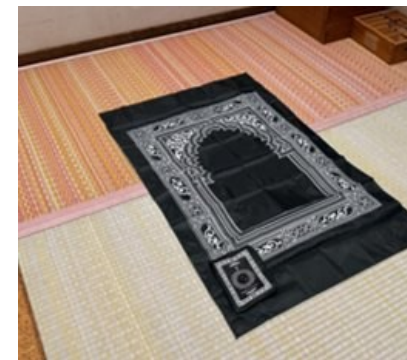
地域の野菜をたっぷり使った  
ベジタリアン対応の天丼

### ●簡易礼拝スペースの設置

- 簡易礼拝スペースを飲食店や宿泊施設、公共施設など計30か所に設置。
- 礼拝所整備のにかかる手間を負担に感じる事業者が多かったことから、**既存の多目的スペースや遊休スペースに礼拝マットを置いておくだけの簡易的な礼拝スペースで十分であることを説明し、取組ハードルを下げることで多くの施設の賛同を得ることができた。**



宿泊施設に設置した  
簡易礼拝スペース

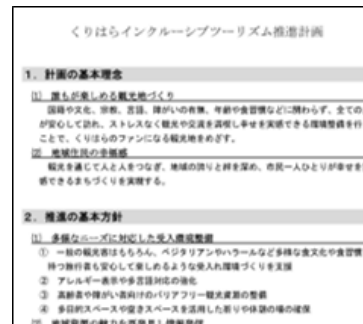


博物館に設置した  
簡易礼拝スペース

# 誰もが楽しめる幸せな観光地づくりを推進するため、推進計画の策定・協議会の設立を実施

## ●くりはらインクルーシブツーリズム推進計画の策定

- 栗原市が主導し、インクルーシブツーリズムの推進における理念や計画、目標などを定めた「くりはらインクルーシブツーリズム推進計画」を策定。
- 推進計画の策定にあたっては、地域の飲食店や宿泊施設に受入対応の現状や課題をヒアリングし、地域の現地に基づいた段階的な計画・目標を策定した。



推進計画



推進計画 リーフレット版

## ●くりはらインクルーシブツーリズム推進協議会の設立

- 策定した計画を推進する官民連携組織として「くりはらインクルーシブツーリズム推進協議会」を設立。協議会には市、飲食店、宿泊施設など43団体が参画。
- 協議会では、本事業において設立記念フォーラムを開催した。本事業終了後も、勉強会の開催、調理体験プログラム、情報発信支援などの取組を継続予定。



設立記念フォーラムにおける  
座談会の様子

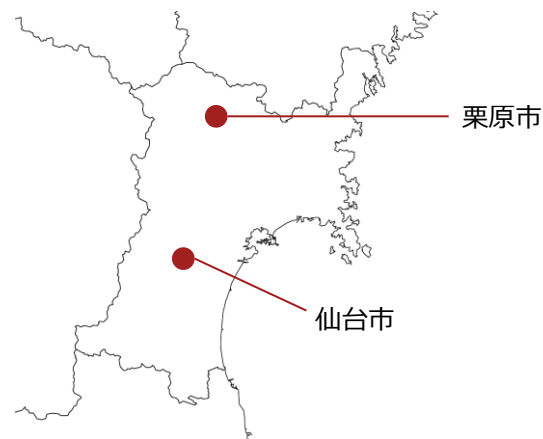


ムスリム対応が必要な留学生  
も参加した試食会を実施

# 仙台市と連携してピクトグラム、対応ポリシー、モデルコースを作成し、旅行者の両地域周遊を図る

## ● 仙台市との連携

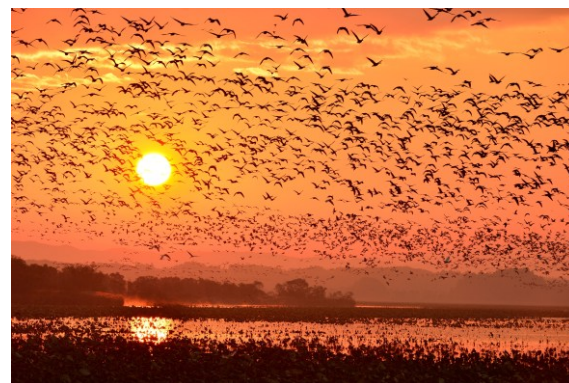
- 飲食店のメニューブック等においてヴィーガン等の対応状況を可視化するため、ピクトグラムを作成。ピクトグラムは**誰にとっても理解しやすいよう、文字入りとし視認性の良い色を選択。**
- 対応ポリシーは事業者による**作成のハードルを下げるため、必要最低限のシンプルな項目**とした。
- モデルコースは両地域の観光スポットやベジタリアン等対応施設を組み合わせ造成し、今後、旅行博やSNSを通じた発信を予定



仙台市と共通の  
ヴィーガン対応ピクトグラム



宿泊施設における  
対応ポリシー掲示の様子



モデルコースに組み込んだ伊豆沼（栗原市）  
における「マガンの飛び立ち観察」の様子

# 今後は短期、中期、長期と段階的なスケジュールを設定して取組を推進し、最終的にはブランド発信による国内外からの誘客を図る

## ● 新たに見えた課題・引き続き取り組むべき事項

- 2025年度は受入環境整備や協議会設立、推進計画策定などに取り組んだものの、**市民全体の認知度向上や意識醸成はまだまだ不完全である。**
- インクルーシブツーリズムを「**地域の普段の受入の質を高める取組み**」として定着させるため、新たなメニュー開発などの受入環境整備を進め、**成功事例を積み上げ、多様な食や生活文化に対する認知度の向上と市民意識の醸成を図る必要がある。**
- そのため、各種情報発信に加え、交流イベントなどを開催し、相互理解を深めていく必要がある。



交流と成功事例の積み上げから  
認知度向上へ

## ● 今後の目標・取組構想

- くりはらインクルーシブツーリズム推進計画では、短期、中期、長期と段階的な取組目標を設定。**最終的にはブランド発信による国内外からの誘客を図る。**

**短期：** モデル施設での対応メニュー導入、情報発信開始、市民意識の一本化

**中期：** 受入店舗等の面的整備、交流イベントの定着、他自治体との連携

**長期：** 「(仮)インクルーシブツーリズムのまち くりはら」としてのブランド発信